

2022年日本生活教育連盟第73回夏季全国研究集会埼玉大会

主催：日本生活教育連盟 第73回日本生活教育連盟夏季全国研究集会埼玉大会実行委員会

後援：埼玉県教育委員会 さいたま市教育委員会 埼玉新聞社

研究テーマ 「世代をつなぎ、他者をつながり、希望を紡ぐ」
～主体者として今・未来をひらく子ども発の学びを～

日時 2022年 8月6日(土)～8月7日(日)

参加について 「現地会場参加」と「オンラインの参加」のいずれかの参加になります。

※8月6日(土) オンライン参加のみ

※8月7日(日) 埼玉近県の方…埼玉教育会館またはオンライン参加
それ以外の方…オンライン参加

日 程	1日目	12:00～12:30	13:00～15:00		15:20～18:00
	8月6日 (土)	分科会世話人 打ち合わせ (本部)	●開会全体会 ・あいさつ ・現地からの報告	●分科会①	A ことばと教育 B 算数・数学 C 社会科 D 小学校の生活指導 E 乳幼児期の教育 F 自然・技術と教育

2日目		9:00～12:00	12:00～ 13:00	13:00～ 14:00	14:20～ 16:45
8月7日 (日)	●分科会②	G 教育と子育て H 子どもと共につくる学び I 社会科 J 思春期を生きる K 生活科と総合学習 L 障がい児教育	お昼 休み	分科会② 続き	●閉会全体会 ・記念講演 金平茂紀氏 ・あいさつ

開会全体会 8月6日(土) 13:00～15:00

●13:00 講演 「子どもから見える本当のこと」

埼玉集会実行委員長 馬場久志(埼玉大学)

●14:00 現地からの報告 「子どもたちの生きる希望によりそう」

～貧困の連鎖を断ち切る 生活と学習の支援～

報告：白鳥勲さん・富山泰正さん・間瀬田結実さん コーディネーター：渡辺恵津子

ごあいさつ

埼玉集会実行委員長 馬場久志(埼玉大学)

コロナと向き合い、マスクでお互いの口元が見えない生活が、日常になってしまいました。つながりたいという子どもたちの願いをどうかなえようとしているか、学校は問われています。かつてない状況で手探りが続いています。コロナ禍でしたたかに生きる子どもと大人たちの日々の中に、未来への希望を見つけ出す、そんな共同作業がこの集会でできればと思います。

ここ埼玉で集会を準備しているのは、いろんな意味で若い実行委員一同です。年齢の若い！メンバーと、精神の若い！メンバーの元気あふれる実行委員会が、皆様をお迎えします。オンラインの向こう側に埼玉の空気を感じていただける集会にしたいと思っています。皆様のご参加をお待ちします。

閉会全体会 8月7日(日) 14:20~16:45

●14:20 ご挨拶 行田稔彦(日本生活教育連盟委員長)

●14:35 記念講演 **「平和とポストコロナの時代を生きる」**

～ウクライナから日本の子どもと教育を考える～

金平茂紀氏 (ジャーナリスト)

金平茂紀氏はジャーナリストで、TBS『報道特集』のメインキャスターを務めておられます。教育雑誌「クレスコ」には「世界の取材現場から見た日本」を連載され、教育問題についても積極的に発言され、『教育とは』を常に問いかけておられます。今回はウクライナ情勢を見据え、日本における子どもと教育についてご講演くださいます。

分科会 8月6日(土)・7日(日)

- (1)ことばと教育 (2)算数 数学 (3)社会科 (4)生活科と総合学習 (5)小学校の生活指導
(6)乳幼児期の教育 (7)思春期を生きる (8)障がい児教育 (9)子どもと共につくる学び
(10)教育と子育て (11)自然・技術と教育

※今年の大会にオンラインで参加される方には、申し込みが完了した時点(支払いまで完了され時点)で、参加方法が届く仕組みになっています。「**申し込み方法**」を確認してください。

※また、各分科会のレポートは、そろい次第、受け取り方法をお知らせします。(8月2日)

※今年は、時間が重ならなければ、どの分科会にも参加できます。

※レポート参加を希望されている方は、「**レポート参加について**」を確認してください。

「レポート参加について」

①レポート参加の希望は、6月30日(木)までに本部にレポート申請を出してください。

「分科会レポート用メールアドレス」に送る nisseiren.reports@gmail.com

記入事項 . . . 「分科会名」「タイトル」「報告者名」「地域」「連絡先(電話とメールアドレス)」

②「分科会世話人」が報告者を確定させ、レポート提出が依頼されます。

※今年は、分科会の時間が短く、報告数が限られることが予想されます。ご了承ください。

<各分科会の研究テーマと討議の柱>

分科会	分科会の研究テーマと討議の柱	世話人 (太字 は代表)
1 ことば と教育	日本語を楽しむ深め認識・内面・表現・関係を豊かにしていく教育 ①国語科の授業の充実(読み、作文、文字、言語・文法の領域) ②言語力を発揮した取り組みの充実(自由作文・発表活動・演劇活動など) ③保育、大学、地域、家庭における言語の教育・活動実践の充実 ④学校や地域の図書館を活用する取り組み	鎌倉 博 金田一清子 桑原英代 小川貴弘 中村晴佳
2 算数 数学	子どもと拓く算数・数学 ①主体的な学びを創り出す児童、学生を育てるには ②学び合いの認識の変化と生活との結合をどう進めるか ③確かな学びのための学習集団づくりと少人数指導	関 忠和 入沢雅代 行田稔彦 渡辺恵津子 中村潤 根路銘結奈

3	社会科	<p>子どもと共に社会を学び、希望を育む</p> <p>①その実践で子どもが知りたいこと・学びたいこと</p> <p>②討論・交流の場の設定と共通課題・個人課題の誕生</p> <p>③実践で生まれた学びと生きる喜び・希望</p> <p>④子どもの主体的な学びを支える教師の指導性</p>	<p>北川 茂</p> <p>辻 直人 松村一成 加藤博之 杉見朝香 宮丸賢一</p>
4	生活科と総合学習	<p>「教科書を教える」から脱皮させる〈無限お道具箱〉の探究</p> <p>①教科書が目的かのように用語や記述を教え込む授業から脱皮する。</p> <p>②体験・経験、活動を持ち込み、ホンモノをめぐる課題を立てて探究し、何を何でも手段として活用する生活科や総合学習の理想を。</p> <p>③その実現のため、学校図書館や通信端末、地域などを〈無限お道具箱〉と見なして、視点と事例を明らかにする。</p>	<p>金馬 国晴</p> <p>村越含博 高橋公平 藤原暢之 和田 仁</p>
5	小学校の生活指導	<p>テーマ：親と子と教師が「安心・自信・自由」でつながれる学級・学校</p> <p>①「不登校・いじめ・暴力」などに見られる子ども達の疎外状況を克服する指導</p> <p>②「荒れる子」「キレル子」の内面と背景を大切に、生きる意欲を育てる 集団づくり・文化活動</p> <p>③父母・地域の人々・職場の同僚との共同による学級・学校づくり</p> <p>④子どもと教師・父母が本音を出し合い、遊び心でつながる学級・学校づくり</p>	<p>中里 明雄</p> <p>宮城健太 阿部 賢 宮城アケミ 阪本 智 藤原健一 小磯政行 松田洋介</p>
6	乳幼児期の教育	<p>根っこになるこの時期 子どもを取り巻く人とつながって</p> <p>①乳児期から小学校低学年の発達課題と子どもが育つ活動とは</p> <p>②子どもが育つ環境（家庭・幼保小大・学童、相談所など）縦と横の連携のあり方及び子どもの権利条約を活かすには</p> <p>③豊かな子ども期を取り戻すための方法と視点(コロナ禍の子どもをめぐる状況と保育指針・幼稚園要領・小学校学習指導要領の課題)</p>	<p>吉野 裕之</p> <p>中河原良子 小山実佳 山田隆幸 吉田真弓 富岡美織 岩崎淳子</p>
7	思春期を生きる	<p>思春期を生きる子どもたちの現状と課題を考える</p> <p>①コロナ禍における子どもたちの生活の生きづらさの現状と課題は何か</p> <p>②学校や地域における自主的、主体的な生活をどうつくり出すか</p> <p>③子どもたちへの理解を深めながら、つながりあい学び合う生活をどうつくり出すか</p>	<p>浦島 清一</p> <p>木村勝保 木村久男 宮崎博史 赤城貴紀</p>
8	障がい児教育	<p>生活と学習の主体者を育てる障がい児教育</p> <p>①子どもをどうとらえるか（「問題行動」と内面理解）</p> <p>②教育内容をどうつくるのか（基礎的日常的な生活活動／科学や文化の学習／文化集団活動）</p> <p>③学級・学校・父母集団・地域をどうつくるか</p>	<p>井関 美季</p> <p>竹田一博 竹沢 清 加藤登美子 箕浦啓太 久保田優美子</p>
9	子どもと共に学ぶ	<p>今、子どもと共に、価値のある学びをつくるために、あらゆる学校種・教科・教科外の実践報告を対象にし、日生連らしい実践分析をします。</p> <p>①子どもにとって、どんな価値のある学びとなったか（教材観・能力観・発達観）</p> <p>②子どもを学びの主人公にするため、教師は子どもをどう見取り、判断し、関わっているか（教師観・評価観）</p> <p>③子どもの価値ある学びを生み出す学校・地域とは（学校観・地域観）</p> <p>※今年度から分科会名を「能力・発達と評価」から変更しました。</p>	<p>谷保 裕子</p> <p>大島 崇 瓦林亜希子 鬼頭正和 岡村保子 松井良之 横山尤子</p>
10	教育と子育て	<p>つながり合って育つ～子ども、教師、保護者・地域の支え合い～</p> <p>①「子ども・おとなたちの生きづらさ」の原因を探り、克服をめざす</p> <p>②「子どもたちの発するSOS」に寄り添い、支える</p> <p>③学校・家庭・地域がつながり合い、「教育と子育て」のために支え合う</p>	<p>山岡 雅博</p> <p>春日井敏之 北村和美 堀江理砂 荒木寿友 安原陽平 長堂登志子</p>
11	自然・技術と教育	<p>わたしたちの生きる地域や時代が見えてくる自然・技術の教育を</p> <p>①コロナ禍とものづくり・技術教育の教育実践</p> <p>②技術・工学教育カリキュラムを生活教育の視点から深める</p> <p>③自然・科学・技術の認識を育てる教材づくり</p>	<p>田辺 基子</p>

豊かな子育てと教育の実践を紹介し交流する隔月刊紙「生活教育」をおすすめします。

隔月 20 日発行 （1 年定期購読 郵送料込 6,500 円）

「申し込み方法」～ネットからの申し込みになります～

※「分科会」に参加の方は、資料をダウンロードしていただくので、ネット申し込みになります。

※8月7日の「記念講演のみを現地で参加」の方は、埼玉教育会館で申し込みも可能です。

Peatix での集会申し込み方法] 6/1 申込み受付開始

1. 日生連 HP (「日生連公式ホームページ」で検索) のリンクから Peatix の集会ページを開きます。

「参加申し込み」があります。

2. peatix でチケット購入に進みます

①黄色いボタンをポチッとします。



チケットを申し込む

②「ログイン」画面で

Peatix を利用されたことがある方→「ログイン」してください。

③初めての方は**アカウントを作成**してください。

SNS かメールアドレスを選んでください

《名前・メールアドレス・パスワード》を入力

*パスワードは、使い回しではない新しいものにするのが個人情報保護になります。

☆ここで入力したメールアドレスに、イベントに関する連絡が届きますので、よく使っているメールアドレスを入力してください。

3. チケットを選ぶ

①「参加費」で該当する種別を選びます。

②枚数は「三角の+」ボタンを押します。

③「年会費」や「講読料」も同時に選択できます。

④10千円の「日生連応援寄付」も研究運動維持のため、ぜひご協力ください。何回でも可能です！

4. 決済方法を選ぶ

①クレジットカード払い

②コンビニ・ATM 払い

(期限を過ぎるとキャンセルになります。期限内にお支払いください)

③ネットバンキング

5. 情報確認

☆イベント細欄に **zoom の ID** 等が記載されていますので、確認してください

☆追加情報は登録したメールアドレスあてに、peatix 経由で送信されます。

☆大会への問い合わせ

* 研究集会企画 日本生活教育連盟事務局長 和田 仁 042-736-0036 (和光鶴川小)

* 大会全般 現地事務局長 深津冬惟 メール nisseiren.saitama@gmail.com

* 日本生活教育連盟公式 HP <http://nisseiren.jp>